

森カフェオープン

東京で奈良味わう

5者の連携 協力事業 新たな情報発信基地に

吉野杉をあしらった内装と県産食材を使うモーニングカフェ「森カフェ」が15日、東京都港区虎ノ門にオープンした。12時の開店と同時に大勢のビジネスマンやOLらが来店しにぎわいを見せた。

開店に先がけて運営会社「きんだい」(和歌山県かつらぎ市)と共同事業体の吉野町、県、南都銀行など5者による連携協力協定の締結が行われた。割り箸袋の印刷シエア全国一を誇るきんだいの溝端社長は「割り箸の生産地吉野の木材を見直してもらおう場にした」とあこがれ。

福田将人県産業・雇
用振興部長は「カフェを中心に県の新たな情報発信基地としたい」と意気込んだ。メニューには吉野町産の卵やキノコ、豆腐などをはじめ県産野菜を積極的に取り入れ、モーニングからディナーまで約45種類のメニューに素材を生かした創作料理を用意。また、

同町の酒造会社の利き酒セットなどもあり、吉野振興を持ち味としている。店内には吉野町の物産やパンフレットの展示コーナーを設ける他、イベントスペースで県関係イベントを開催する予定。



大勢のビジネスマンらがにぎわう店内。15日、東京都港区虎ノ門の森カフェ